

聖徒のための情報誌

今月号の内容

- (1面) 全国の聖徒団を訪ねて
- (2面) 聖徒の体験談  
本光寺「かまじめ寒行」
- (3面) よろこび歳時記  
日蓮大聖人の歩まれた道  
よろこびちゃんの質問箱
- (4面) よろこび法話  
全国のよろこびちゃん

平成29年(2017年)2月1日(水)  
2月号

発行所  
〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町3-25-11  
九段中央ビル702  
日蓮宗霊断師会九段事務所  
電話 03-6272-9340  
FAX 03-6272-9341

日蓮宗霊断師会

会長 末吉 観道  
編集人 松本 恵昌  
購読料 1部 100円(税別)  
毎月1回1日発行  
日蓮宗霊断師会ホームページ  
<http://www.yorokobi-reidanshikai.jp>  
よろこび投稿メール  
[yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp](mailto:yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp)

全国の聖徒団を訪ねて

〜岩手県遠野市法華寺聖徒団〜

岩手県遠野市法華寺聖徒団(阿部是秀団長)は昭和二年に遠野市(旧宮守村)に御開基妙隆院日精上人、慈光院日華法尼が、祖師堂を建立し、妙宗会を結成し法華経宣布を始める。

同年、宮沢賢治ゆかりの地に花巻教会を建立し、教線の開拓を行う。昭和三十年に旧本堂を建立、昭和四十四年六月寺号公称を果たす。時の



身延山八十六世、一乘院日静上人を開山に迎え、開堂供養。平成三年に開山日静上人第二十三回忌の砌、新本堂建立「一万人講」を結成し、祖山大本堂を模した本堂建設に着手。平成八年二月入仏供養を奉行。平成九年六月二十一日身延山九十一世妙道院日光上人導師の下、落慶大法要を奉行。以降、鐘楼堂、客殿「教雄閣」、日蓮大聖人銅像、常不軽菩薩像、昇龍堂、庫裏

境内地を拡張整備し、現在、本堂の裏にあった常唱殿の老朽化に伴い、霊断と御祈禱のお堂として祈禱殿を新築中である。



九月二十二日、晴天の中、当山の秋彼岸会と開運福龍大明神大祭が行われ、

聖徒の皆さんが日々供養されている霊位の塔婆が建てられ、団長、聖徒一同一心に読経、唱題の大音声で供養の誠を捧げ、阿部団長が一人の霊位を読み上げた。午後より開運福龍大明神御法楽大祭が行われ、一年に一度だけの福龍大明神様のお開帳があり、その際には午前晴天とは打って変わり、曇りになり雷が鳴り響いた。まるで龍神様が天を泳いでいるかのような光景が、聖徒の皆さんは真剣な眼差しでお開帳された福龍大明神様

の尊像を拝していた。阿部団長は、「この様に伽藍を整えることができたのは寿量御本仏様、日蓮大聖人、御守護神様のお力と俱生神月守を着帯している皆様の日々お参りしていただいた報恩感謝の気持ちがこの様な伽藍にさせていただいたと感じている。私個人が建てたいと思っただけではこの様な伽藍にはならなかった。お寺は個人の物ではなく皆様のもの。お祖師様のもの」と聖徒の皆様に伝えていた。現在、祈禱殿が建立中であるが落慶の暁にはご威光が倍增することであろう。

変革の時をむかえて

日蓮宗霊断師会副会長  
千葉県正蓮寺聖徒団団長

大塩 孝 信

私は、昨年の九月五日・六日の二日間に亘って中国喜州省喜陽の大興国寺の再建・中興・晋山式に日中友好宗教者懇話会の日本代表の一人として出席させて頂きました。



そのお寺の境内の広さ、七堂伽藍の大きさ、参列者は僧侶二千人、檀信徒一万人を越え計三方所で行われた大規模なご法要は正面正門より始まり記念撮影が終わるまで四時間半休む間もないご法要の連続でした。



世界は、イギリスがEUを脱退し、アメリカではトランプ氏が大統領に当選し、日本ではカジノ法案が衆・参両議会を通過し成立しました。

世の中は変革の時代を迎えています。近年の宗教界の変革を見ると四回の大きな波があります。一つは幕末から明治維新、二つは日露戦争から大正期、三つは第二次世界大戦と戦後、四回目が増す。この時ご信者さんが急速に増



えているのです。この時期には共通点があります。全て転換期なのです。今までの価値観が否定された時、人は精神的不安をおこします。人間に心がある限り法華経・お題目は必要不可欠なのです。変革の今こそチャンスなのです。私たち団長・聖徒は心一つにして九識霊断法・俱生神月守をいまだ知らない人々のために更に弘めてまいります。



津軽宇田山 閻法寺



2月26日(日) 午前11時より  
正伝師円成  
国 禱 会

〒030-1403  
青森県東津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2  
TEL 0174-25-2712  
住 職 工藤 堯幸・副住職 工藤 堯慎

妙正寺聖徒団  
小木 貞雄



2月5日(日)午前11時  
節分厄払大祈禱会。釈尊涅槃会。  
毎月1日午前10時 盛蓮祈願会

北海道妙正寺聖徒団

〒071-1423  
北海道上川郡東川町東町2丁目6-3  
TEL 0166(82)2714  
FAX 0166(82)2914



いかにされるよろこび  
美濃乃國  
常唱寺 聖徒団

〒501-3734  
岐阜県美濃市千畝町2738-2  
TEL/FAX 0575(33)1430

本山 妙頭寺  
佐野



天目聖人御報恩  
平成屋根等大改修  
ご寄付募集中!

●郵便振替  
口座番号 00180-6-267327  
TEL 0283-22-1524  
口座名義 妙頭寺建設委員会  
〒327-0843 栃木県佐野市堀米町264  
TEL 0283-22-1524  
FAX 0283-22-4194  
<http://www.sano-myokenji.jp>

感通寺



日蓮宗霊断師会終身名誉会長  
感通寺聖徒団団長  
新聞 智雄

〒162-0044  
東京都新宿区喜久井町39  
TEL 03-3209-8782  
FAX 03-3208-7966



心を揺り動かされるほどの感動と経験

# 第九回 冬至水行祭 ほしまつり

十二月十八日(日曜日)、富山県真成寺聖徒団(谷川寛俊団長)で「第九回冬至水行祭・ほしまつり」が開催された。毎年盛況で、全国各地より二百十八名の参加があり、最年少は三歳の女の子、最年長は八十歳の女性で、参加者を感動の渦に巻き込んだ。

**【参加者より】**  
・素晴らしい経験をありがとうございました。一年間の総決算。心のアラ落としができました。人生初の水行でドキドキしましたが、最高の気分です。来年もぜひ参加させて頂きます。  
・清々しい気持ちで心機一転、新たな年を迎えられそうです。

**【団長より】**  
一人でも多くの方が、日本の伝統文化の一つ、「水行(禊)」を実践感なされますことを願って止みません。心を揺り動かされるほどの感動と経験が、その人を成長させる節目になるものと信じます。年々盛り上がる「冬至水行祭・ほしまつり」は、水行にご参加

下さる方々の敬虔な気持ちと、その気持ちにちよえようとするフ一同の温かい心、そして日本の伝統文化の掘り起こしを目指す真成寺が三位一体になっている証だろうと思えます。心に抱く様々な思いを、「感謝」と「反省」の気持ちに乗せて、一人でも多くの方がご参加になり、実践体感くださる事を願っています。経験に勝る力なし!

**【副団長・冬至水行祭・ほしまつり実行委員長 谷川寛敬上人より】**  
次回の「第十回冬至水行祭・ほしまつり」は、平成二十九年十二月十七日(日)に開催されます。多くの方のご参加をお待ちしております。



日本の伝統文化の一つ「水行(禊)」

## 俱生神月守の不思議 聖徒の体験談

五十四歳男性

『お題目に、俱生神月守に命を助けていただきました。』

本当に有り難いお守りです』

そう話すのは、十月末日心筋梗塞を患ったが奇跡が奇跡を生み、今は元気に回復した男性である。十年前に旅行でたまたま身延山に行ったのが転機だった。久遠寺の朝勤で僧侶や参拝者がお唱えするお題目に感動された。その日から曼荼羅をかかげ毎



日、仕事に行く前『今日も一日宜しくお願い致します。南無妙法蓮華経』また仕事から帰宅し『今日も一日ありがとうございました。南無妙法蓮華経』と日課になった。信仰を欠かす事はなかった。

また四年前から俱生神月守の着帯も始めた。そんな中、いきなり心筋梗塞を発症した。仕事中、会社を出て、車の運転を始めようとしたとき突然、息が苦しくなり胸が痛み始めその場に倒れた。会社の駐車場だったので、職場の人がすぐ救急車を呼び、会社から三分の所に、総合病院があるため、すぐ緊急手術を行うことができた。カテーテルを入れてわずか十五分程で原因が見つかり、一命をとりとめた。男性は、『もし運転中に苦しくなっていたら、』

もし近くに誰もいなかったら、もし近くに病院がなかったら、そう考えると怖いのです。しかし、毎日心臓の前に着帯している俱生神月守に、助けていただきました。今、当たり前のように生きています。これは、当たり前ではなく、生かされている。これからは家族みんなで俱生神月守を着帯して信仰を続けていきたいと思います。と語っていただいた。



## 十五年ぶりの かまじめ寒行

宮崎県日向市財光寺の町に十五年ぶりにうちわ太鼓の音が鳴り響いた。

新興宗教の進出もあり十五年前、近隣住民から『太鼓の音がうるさい』など様々な電話が寺院にかかり、行脚中にも罵声を浴びせられることが度々あった。本光寺住職は長く続く寒行をやめるわけにはいかないと続けていたが、この時期に住職が二度にわたり喉にポリープができ、体調を壊され、長く続いた寒行ができなくなりました。



うちわ太鼓の音が町に鳴り響いた

苦渋の決断で寒行を中止せざるを得なかった。しかし、冬

宮崎県日向市財光寺の町に十五年ぶりにうちわ太鼓の音が日向市財光寺の町に十五年ぶりに鳴り響いた。最初はとも不安であったが、寒行のお題目を待ってくれている檀家さんを思い太鼓を叩いて回った。そしてその不安は太鼓を叩くたびになくなっていた。

檀家さん以外の方から浄財やお米、ジュースをいただき『頑張つてね』『懐かしいよ』などたくさんのおいしい言葉をいただいたのだ。

また、檀家さんのお孫さんまで一緒に『なむみょうほうれんげきよう』と太鼓を叩いて回って歩いてくれた。

吉良団長は、『行事を復活させることはとても不安で勇気が入りましたが、寒行を復活して本当に良かった。どんな想いで歴代の住職が寒行を続けて来たのか、十五年間待っていた檀家さんの思い、沢山の思いが太鼓を叩くたびに心に響きました。これからも色々な逆境があるでしょうけど、この感動を忘れず水の流れるようにひたむきに、続けていきたい』と意気込みを語ってくれた。寒い空の下心温まる吉良団長の熱き想いの取材でした。

吉田憲由通信員

宮崎県日向市 本光寺聖徒団 吉良貴徳団長



太鼓を叩く、えいと君

## 身延山に行ってきました



富山県利生寺 聖徒団 (末吉観道団長)

(左) 幾島 昭子さん 「平成17年から欠かさず参加しています。年に一回の行事として予定に入れています。毎回、心が洗われます。」  
(右) 島崎 次子さん 「平成9年から今まで、身延大会に来れなかったのは一回だけです。足が痛いですが、お祖師様に会えることを楽しみに、今回も参加できました。」



栃木県高根沢 妙福寺聖徒団 (大森義孝団長)

(左) 大森 義孝上人 (聖徒団長)  
(右) 大森 ゆきさん 「身延大会は第30回大会あたりからずっと参加しています。年に一度、夫婦一緒に来られることに感謝しています。」

よろこび歳時記

横浜に葵精舎道場 落慶式

横浜市 常照寺聖徒団



伊東団長導師の中、200名の盛大な落慶式



八光流柔術の「合気武道吳道会」の稽古場として使用する他、月一回行っている「こども食堂」の会場にもなっている。



南太田駅から徒歩40秒 堂々とした葵精舎

十二月四日横浜市・常照寺聖徒団・伊東政治団長の十年来の悲願だった道場がお寺の境内の一角に完成した。

今年六月から始めた「横浜でらこや・こども食堂」では、食事提供だけでなく、大学生にも協力してもらい、遊びや勉強も子どもに教えている。

「昔のお寺のように、地域の人たちが自然に集まってきて共に生き共に栄えていく。多くの場所に親しまれるコミュニティの場所を目指したい」と笑顔で話してくれた。

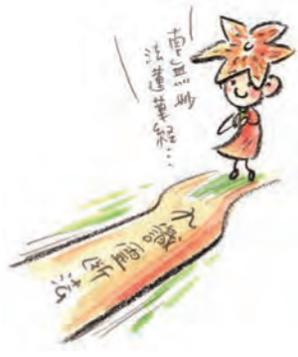
よろこびちゃんの質問箱



よろこびちゃん

今年の干支は丁酉 どんな年になるの？

干支というのは「十干(じつかん)」「十二支(じゅうにじ)」を組み合わせた「十干十二支」を「干支(えと)」と呼んでいるのよ。



今年の十干は「丁」

丁には亭・停留・壮丁という意味もあり、成長した後勢いが止まり、一人前として認められた状態とも言われるわね。

十二支は「酉」

酉は熟成・発酵という意味もあって、果実が十分に熟した完熟状態とも言われるのよ。

でも裏を返せばこれは物事の腐り始めというふうにもとれるわね。

この二つを組み合わせると、終焉と始まりの年。

つまり今までの生活環境がガラリと変わる人が増えるということ

引越しまりや転職など、新たなことが始まる予感もするわ。同時に新たなことにチャレンジする人が増えて、習い事やスクールに通い始める人や、会社を辞めて独立する人も出て来そう。

新しく良いスタートが切れる人ばかりなら良いけど、終焉の意味から諦めモードに入る人もいるということね。

だからこそ、日々お題目を唱えながら、いつも肌身離さず俱生神月守を着帯するようにして、物事を始める時や不安な時は九識靈断法をお願いして道を照らしてもらおうようにしてね。

みんなが、安心して充実した幸せを取り(トリ) 込む一年になりますように！

ほつと絵手紙



大分県杵築市妙経寺聖徒団の後藤宏子さんから絵手紙です。ありがとうございました。



宮崎県の大橋厚子さんの絵手紙です。ありがとうございました。

第六十四回 日蓮大聖人の歩まれた道

諸国への遊学(その十七)

靈断院教学部長 小泉 輝泰

「聖人と申すは委細に三世を知るを聖人と云う。儒家の三皇・五帝並びに三聖は、ただ現在を知って過・未を知らず。外道は過去八万・未来八万を知る。一分の聖人なり。(中略)法華経の迹門は過去の三千塵点劫を演説す。一代超過これなり。本門は五百塵点劫・過去遠劫をもこれを演説し、また未来無数劫の事をも宣伝す」

(聖人知三世事)

京都に滞在中の蓮長は、五条付近にあった天王寺屋浄本の屋敷を宿所としたといわれています。天王寺屋浄本は、本屋であったという説が一般的ではありますが、一方で天王寺の役職に就いていたとする説があります。それ故に『本化別頭仏祖統記』などでは、大聖人が天王寺の秘

また同時期に和歌の手解きも受けたといわれています。和歌の習い事と聞くと、何となく趣味的な印象を受けてしまいますので、「大切な留学中にそんなことにならうつつを抜かして」と思ってしまうかもしれません。しかし書道や歌道などの手習いを修得することも、当時の教養ある文化人として認められる上でとても大切なことでした。

後にはこの浄本は、妻の妙蓮と共に大聖人の弟子となります。そしてこの屋敷を精舎と改め、夫妻の名を一文字ずつとって「本蓮寺」と号します。

後の大聖人の御書に見られる歌の数はその程多くはありませんが、大切な人を亡くした婦人に対してその悲しみを詠まれたものなど、そのお言葉はとて心響くものです。大聖人はご自身の感得された崇高な法門を厳しく教え導く一方で、人々の苦しみや悲しみを共に歎くその御心を優しく歌に詠み、弟子檀越の一人ひとりに寄り添うようにお言葉をかけられているのです。



# よろこび法話

## いのちを助け隊



島根県出雲市祐宗寺聖徒団団長  
島根県霊断師会会長  
堀江 泰誠

先日こんな良い事がありました。雨の日の夕方です。私が園長をしています保育園で会議をしていますと、保育士が「園長先生、小学校の子たちが園長先生にお願いがあるって来てますけど」と言います。

「はいはい」と玄関に出てみますと、三年前にうちの保育園を卒園した四人の卒園児とびしょぬれになって震えている中型の柴犬でした。

「どうした?」と聞きますと、「学校の帰り道、道路で車にひかれそうになって怯えている犬がいたので、助けてあげたんだ」というのです。でもその後、どうしようと言うことになって、自分たちがずっと通っていた保育園ならなんとかしてくれるんじゃないかと思っただけで、訪ねてきてくれました。みんなの顔は「この犬を助けて」という真剣そのものの顔なのです。

彼らにとつては最近にない「大事件」であり、「いのちを助け隊」の結成です。

まあ見せてもらって、犬をみますと幸いに首輪に狂犬病の注射済みの登録証があり、番号で飼い主がわか

るようになっていきます。さっそく保健所に電話をして飼い主を探してもらうこととなりました。

その間、私が犬をお寺の軒下に連れていこうとしますが、怖がって動こうとしません。しかし、子どもたちが優しく寄り添って促すとゆつくり軒下へ歩き出すのです。

荷造りのひもで柱に結び、「これで飼い主さんが来るまで大丈夫だから、みんなは家へ帰らなさい」といいますと「命が心配だから、待ってる」といいます。再度帰るように言いますと、「じゃあ一旦帰ってこへ集合」と言うことになったようです。

登録番号からすぐに飼い主さんが見つかり保健所から連絡されたようで、じきに飼い主さんが保育園にやってきました。

つないであつた鎖が切れてしまい、逃げ出してしまったようです。

飼い主さんとお寺の縁の下へ向かうと、そこには四人の子も犬と一緒に宿題をして待っていました。

飼い主さんはびしょぬれの犬を抱いて、何度も何度もごめんね、ごめんね、怖かったでしょうと言っています。

その姿を見て子どもたちは、うれしいやら安心したやら、でもとてもいい顔をしていました。

飼い主さんは子どもたちにお礼を言い、お土産のジュースを渡しうれしそうに帰って行かれました。

もちろん私も、「みんな良い事したね、えらかったよ」とたくさん褒めて、ご褒美をあげました。

子どもたちにとつての「大事件」はこれで一件落着ですが、大切な命を友だちとみんなで救った喜びと、感謝をされた思い出は心の宝物として、ずっとこの子たちの心に残ると思います。

さて命についてもう一つお話をさせて頂こうと思います。

先日ある講演会で、ある大学の医学部教授のお話を聞きました。

この先生はガンの分野ではとても著名な先生です。

この先生の専門は、「がん哲学」といっています。ガンを手術で摘出するとか、

放射線で治療をするとか、特殊な薬で何とかするとかではないのです。

がんの細胞のエキスパートのお医者さんが、患者さんと対等な立場でガンを語り合う外来なのだそうなんです。

先生がおっしゃる言葉に「脇を甘くして、付け入るすきを与えて懐の深さを示し、そして感動を与える」。人間みな人に付け込まれないよう脇をしめ、自分を守るためにガードをするものなのです。それは地位や、職業、財産によって更に強くガードしてしまいます。がんの専門のお医者さんが、ひたすら脇を甘くして、患者さんの話を聞くのだそうです。

外来に来る患者さんと様々な話をし、何を求めてこられたのかを知り、その事を一緒に考えていけます。そこには常に「命」と「生涯の生活」が中心となります。

究極は「人は最後に死ぬと言う大切な仕事が残っている」

人間はガンでなくても死ぬんです。

「ガンがあつてもいい、天寿を全うするということ」だからこそ「命」はかけがえのないものであり、代わりの利かないものなのだと言われます。

私たちがお読みする法華経は、「生きる・生かされる」ことが説かれてお経です。

ですから日蓮聖人は、病気を抱えたご信者さんの延命を願うお手紙の中に、法華経に説かれる命の価値をお伝えになっておられます。

命と申すは物は一身第一の珍寶なり、一日なりともこれを延ぶるならば千萬両の金にもすぎたり

「可延定業御書」

人はどんなに未来を嘱望されていながらも、死を免れないものであります。

人に尽くし、周りの人を幸せにしてくれた尊い人であれば、本人の意思によらず志半ばで死ぬ事もあります。だからこそ、命ある一日を大事に、大切に、おろそかにすることなく、生きよ、どんなに苦難があろうとも、法華経を持って生きよとおっしゃるのです。

ご本仏様から頂いた命です。天命、天寿は必ずあります。

それに気づいたとき、私たちは生かされている一日に感謝しなければならぬのです。



本誌イラスト 小川けんいち

全国のよろこびちゃん vol.40

和歌山県和歌山市 妙宣寺聖徒団

井口愛梨ちゃん  
平成24年8月4日生まれ  
井口颯人くん  
平成27年6月9日生まれ

お姉ちゃんが大好きな颯人くん、どこに行くにも離れません。いつも二人は一緒です。

全国のよろこびちゃん vol.39

東京都 清隆寺聖徒団

神田陽南ちゃん  
3月生まれの8歳です。

産まれた時から家族でお寺に行っています。今日はパパと大好きなディズニーランドに来ています。お寺でお絵描きするのが楽しいです。

全国のよろこびちゃんを募集しています!

砥森山 法華寺

生きて救われの道場

住職 阿部 是秀  
副住職 阿部 是眞

〒028-0304  
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1  
電話 0198-67-3166  
FAX 0198-67-2227

安房乃國随一 三十番神祈願道場

顕本寺聖徒団  
団長 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」  
〒295-0002  
千葉県南房総市千倉町川合690-1  
TEL 0470-44-1062  
TEL 0470-44-1524

信用第一の専門店

◇格調高い関東風仏具◇

宗務院指定

仏壇・仏具 仏像彫刻  
内陣荘厳具 設計製作

(株)中野三佛屋

東京都台東区寿2丁目7の12  
電話 03 (3843) 6951  
FAX 03 (3843) 6973  
定休日 日曜日

利生寺

日蓮宗霊断師会会長  
利生寺聖徒団団長

末吉 観道

〒930-0055 富山県富山市梅沢町3-16-10  
TEL 076-421-8776 FAX 076-421-8250

正蓮寺

日蓮宗霊断師会 副会長  
日蓮宗宗会議員  
正蓮寺聖徒団 団長

大塩 孝信

〒290-0151 千葉県市原市瀬又134-1  
TEL 0436-52-0207  
FAX 0436-52-2288